

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) カナガワダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) カナガワ ユキモト
神奈川大学	経営学部	神奈川 行本ゼミナール

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ガイコクジン	フリガナ) ツツミ ケイスケ	3	無	
外国人労働者班	堤 圭佑			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

作成したウェブサイト

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

外国人労働者

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

本研究は、情報で日本企業と外国人を繋ぐ手助けをすることが目的である。現在の日本において高齢化が進み日本社会の働き手の減少が見られ、社会的に問題となっている。そこで取って代わる存在として外国人労働者が挙げられる。また、私たちメンバーの親が外国人と共に働いており、外国人労働者を身近に感じていた。

しかし、外国人労働者の雇用の現状として外国人に不利な現場で働いていることが多くみられる。そこで日本企業の大切な人材確保と外国人により良い企業選択をしてもらうため、私たちが制作したウェブサイトを提案する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

厚生労働省によると現在の日本の労働人口はピーク時から 500 万人減少しており、外国人労働者はここ 10 年で 3 倍の増加が調査からわかりました。また、2019 年に施行された改正入管法により特定技能 1 号、特定技能 2 号が発行されていくことで外国人労働者がこれから一層増加していくことが予想されている。

そして、外国人労働者が増えていくことで様々な問題が起きていくことが予想されるが現在、起きている問題の中で私たちは外

国人労働者と日本企業の働き方の認識の差に対して疑問に思い研究をスタートさせた。

3. 研究テーマの課題

本研究テーマの課題は外国人労働者の劣悪な労働環境への対策である。現在、ニュースでも取り上げられているが、外国人労働者に対する日本企業の不当な扱いのせいで外国人労働者の夜逃げや自殺などが問題になっている。私たちが行った調査でも残業の頻度やパワハラなど数多くの問題が浮き彫りになってきている。

しかし、外国人労働者に対してよい労働環境を提供している企業も数多くある。調査の中で日向鐵工(株)ではベトナム出身のグエンさんにインタビューをさせてもらえることができ、日向鐵工(株)さんはグエンさんを日本人労働者と同じ目線で扱ってもらえて今では主任までなることができ、日向鐵工(株)さんにとっても感謝をしていると述べていた。また、(株)ひらいでは代表取締役である服部さんにインタビューをさせてもらい、会社の方針として外国人労働者を外国人として扱わないことや給与を日本人と同じにし、週に2回夜ごはんを外国人と共にコミュニケーションを図っているそうだ。

このように私たちは外国人労働者に対してより良い労働環境を提供している日本企業もあることがインタビューからわかった。しかし、このような日本企業を知る機会とこれをより細かく丁寧に表してくれている場を提供することが必要であると私たちは考えました。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の課題を解決するために私たちが提案するのは外国人労働者に向けたよりよい日本企業の情報を掲載したウェブサイト「KANITURE」を制作することである。

ここでのコンセプトは「only good な情報」である。現在、メディアでは外国人労働者に関するニュースとしては悪いニュースが大半を占めているが、私たちはより多くの good な情報を発信していきたいと考えている。そして、なぜウェブサイトにしたかという点と現在のアジア主要国のネット普及率が非常に高くなってきているからである。さらに全世界に発信することができ、多くの人に購読してもらえることができるからである。

内容としては①外国人労働者による記事②日本企業による記事③お知らせ記事で構成され、インタビュー内容等を掲載している。お知らせでは外国人に役立つ情報等を掲載していく。そしてビジネスモデルキャンパスを作り提案の内容を明確化した。またパートナー制度を利用し、EC サイト運営会社 CEO のロビンさんや通訳士のカオさんのコミュニティを利用させていただきこのウェブサイトを広めていく。これらを見てもらった外国人により良い日本企業が数多く存在しているということを知ってもらうことが「KANITURE」のゴールである。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

まず、外国人労働者がどのような方法で働きに来ているのかということを知るために(株)ビザアシストの太田代表取締役にインタビューをした。現在、外国人が日本で働くためのビザとして29個存在し、特に技能実習ビザが主な日本での働き手だそうだ。また2019年4月施行の「改正入管法」でさらに外国人労働者が増えることについても話が聞いた。

次に外国人労働者である日向鐵工(株)のグエンさんと外国人労働者を雇用している(株)ひらいの服部取締役に現在の労働環境の実態等に関して生の声をインタビューすることができた。

最後にインタビューを行った(株)ひらいさんやECサイト運営会社CEOのロビンさんからこのウェブサイトについて内容としてもこれらを見据えたものとして着眼点がよい取り組みだとよい評価を頂けた。

6. 結果や今後の取り組み

私たちの今後の取り組みとしては1つ目にリアルな情報をより多く掲載し、メディアとしての機能を確立していくことである。外国人の方々にもっと知ってもらうためにはまだ情報の量が少ないためこれからより多くの企業と外国人労働者の方々にインタビューを重ねていきメディアとしての機能確立を目指していく。

2つ目に人材紹介の機能を追加し、ビジネス価値の向上をすることである。現段階ではお知らせ記事で載せるイベント情報に関する広告料だけであるため、メディアとしての機能を確立させることができれば人材紹介の機能も追加することができ、ビジネス価値も向上を見込むこともできると考えている。

7. 参考文献

・内閣府（2017）日本の人口構造：子ども・子育て本部-内閣府

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/data/jinkou.html>（閲覧日 2019年6月3日）

・厚生労働省（2018）外国人雇用状況の届出状況について（報道発表）|厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_koyou/gaikokujin/gaikokujin-koyou/06.html（閲覧日 2019 年 6 月 29 日）

・下川輝（2018）【入管法が改正！】何が変わるの？外国人労働者受入の今後は？ <https://hcm-jinjer.com/media/contents/b-contents-saiyo-houkaisei-181218/>（閲覧日 2019 年 6 月 29 日）

・不破雷蔵（2019）アジア主要国のインターネット普及率などをグラフ化にしてみる（最新）
<http://www.garbage.net/archives/1859537.html>（閲覧日 2019 年 8 月 19 日）

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナル関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください